

道

2022年3月1日
(第79号)



真備町服部・遠田地区から
小田川堤防と真備の町を
望む
(右上は福寿草)

小学校三年生の教室。参観日だが少年は諦めていた。その授業が終わり、ふと後ろを見た時のことが少年の忘れられない思い出となる。そこにいないはずの母がいた。▼少年の母は、父のDVに耐えかねて家を出ていった。事情があつて少年の兄と妹は母の実家に行つてしまい、少年は学校から帰つても誰もいない家で涙を流した。父も家に戻らず(父には他に女性がいたらしい)、本家の祖母の傍で寝た。▼そんな時の母との出会いだつた。教室から出て運動場で母に声をかけられる。「元氣じゃつた? もう少し待つて。そしたら一緒に暮らそう」。少年は感激で「うん」としか言えなかつた。▼母との思い出は尽きない。その母の「愛」に子は胡坐をかいた。長じて二度の結婚をし、それぞれ破綻に追い込んだ男に対して、母は静かにこう言うのだった。「あんたは、ほんとにええ子で、自慢したいほどじゃつた。ところが、大人になつてからは、心配のかけ通し。なんかあつたら三重などに呼びだされ、いつも複雑な思いで岡山に帰つてきた。いろいろあつたなあ。どれだけ気を揉んで心がすり減つたことか」。▼男は定年後に独り真備に戻り、母と兄が住む家に転がり込む。その次の年に母に癌が見つかつた。四年後に母を自宅で見取るまで、男に母への罪滅ぼしのできたのであろうか。▼泣き虫だつた少年は、涙が出ない男となり、母の最期に何十年ぶりの涙をみせたという。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林 道 也



遠田 椋の木